

二十歳の誓い

私は、小学校から高校を卒業するまでに沢山悩み考えてきました。

6人兄弟の4番目で、これだけ兄妹がいれば勉強を教えあったり、お互い助け合ったりするかと思いますが、私の兄と姉は勉強が得意ではなかった為、教えて貰うなんてことは全くありませんでした。両親も共働きということあり、小さい頃から『自分のことは自分でやる』という母の教えの元、なるべく自分で判断し行動してきました。でも幼い頃の自分の判断は、良かれと思い行動したことで、親に怒られることが度々あり、悔しくて辛い思いも覚えています。

私は絵を描くことが好きで唯一の特技でもありました。絵は家族や友人に「上手！」と褒めてもらい、コンテストで取った賞はすごく嬉しく、「イラスト関係の仕事に就きたい」という夢を持っていました。母にその夢を伝えると、兄妹が多いこともあってか金銭面に敏感で、「イラストなんて売れへんと意味がないし、狭き門やねんから、やめとき。」と言われ、内心ムチャクチャ腹が立ったのですが、「確かにそうやな。」とってしまう自分がいました。

それ以来『夢』がなくなり、中学生活の大半をさ迷いながら、高校を出て大金をかけてまで大学で勉強したいかと悶々と考え、悩みました。

中学3年生の春に京都工学院高等学校の存在を母から教えてもらい学校説明会に行き、その中で興味を持ったのが『街づくり』でした。私は絵を描くこと以外にもものを作ることも、人の役に立って喜んでもらうことも大好きで、街づくりをしてみたいと興味を持ったのです。そして京都工学院高等学校に進学しましたが、また直ぐに、民間企業に就職するか公務員になるかの二者択一を迫られました。「やらずに後悔するより、やって後悔した方が良い」公務員試験にチャレンジし、現在京都市役所の建設局で土木技術職員として働いています。

数々の選択を20年間でしてきましたが、私は何一つ後悔していません。仕事は辛いこともあります。嬉しかったこともあります。それは些細なことですが、私の一番やりたかった「人の役に立ち喜んでもらう」ということにピッタリと当てはまっています。そういった自分のやりたいことを忘れず、今後も「京都の街づくり」に一生懸命関わっていきたいと思います。これを二十歳の違いとさせていただきます。

令和4年1月10日 新成人代表 田中 鈴音